

第1問 【30点】

問1 ① B ③ E 問2 1 ② ア・エ 2 ④ ウ・エ (1、2とも完全解答)

<レポートの構成表 全体構成>

標題：イメージづけによる節約行為の実践

1 調査の目的

「節約」というと「ケチ」「我慢」などのイメージを抱きやすく、抵抗感を覚える人がいるという。そこで、同じ行為に対して別のイメージづけをした場合、節約行為が実践されやすくなるかどうかを調査し、結果を確かめる。

2 調査の方法

9月1日から14日までの2週間、本校図書館にあるコピー機（1階、2階の2か所）前に「ミスコピーに注意」という張り紙を掲示する。1階には、「節約のため」、2階には「環境のため」という理由を張り紙に記載する。

各コピー機について、ミスコピーの発生率を算出する。調査期間中の両者を比較するほか、張り紙を掲示する前の発生率とも比較する。

(注：図書館のコピー機は使用枚数を図書館職員に申告するようになっているため、枚数の把握に問題はないと考えられる。)

3 調査の結果

張り紙の掲示前と掲示後を比べると、ミスコピー発生率は次のようになった。

1階コピー機 21.4% → 16.6% 2階コピー機 20.8% → 8.4%

どちらの場合もミスコピーは減っているが、比較すると、2階コピー機のほうが減少の幅が大きくなっている。

4 結果の考察

「節約のため」でも「環境のため」でもある程度の節約行為は実行されるが、効果が高いのは「環境」を理由とした時のようだ。

「環境のため」という言葉は、「明るさ」や「社会貢献」などプラスのイメージを抱きやすい。そのため、節約行為に対する抵抗感が減り、積極的に節約につながる行動を取りやすくなると考えられる。

以上

第2問 【40点】

問1 ウ

問2 解答例

「ツールの使用数」を、「人付き合いの深さ」の結果にクロスして集計した。すると、現実より「深い」と答えた人の約6割が「3種類」、「浅い」と答えた人の約5割が「1種類」を使っている。ここから、使用するツールが多いほど、ネット上での人付き合いを深いと認識し、少ないほど浅いと捉える傾向が見える。(22字×7行)

裏へ続く

第3問 【50点】 作成例

さて、当店では来年1月から、電子マネー機能付きの新しいポイントカード「ベルカ」を発行することとなりました。今月中にベルカへのお切り替えをお申し込みのお客様には、特典として500ポイントを進呈いたします。また、旧カードのポイントも、そのままベルカに移行できます。電子マネーはレジでのお支払いが便利でスピーディーですので、ぜひお買い物にご活用ください。

切り替えをご希望の方は、同封した「申し込み書」にご記入の上、当店までご持参またはご返送ください。

なお、まことに勝手ながら、旧カードのポイントは来年9月末にてすべて無効となります。どうかご了承ください。

今後とも変わらぬご愛顧を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

敬具

(22字×17行)

第4問 【80点】

作成例1

私の家では、いつも食事のときにテレビのニュースが流れている。最新の情報に基づく報道を何となく見ているだけでも、何が重大なできごとであるのかはおおよそわかる。また、インターネットの文字情報や動画などを通して、そのときの社会の動きを直接反映した情報を得ることもできる。以前、ネットで知った事件について、詳しく知るために、新聞や雑誌と読み比べたことがある。しかし、それらの記事の内容はテレビやネットでもう見たものばかりで、新しい情報は得られなかった。

テレビやインターネットを利用して、私は社会の動きを効率的に把握している。十分な情報は入手できており、もう紙の新聞や雑誌などを利用して、改めて情報を得る必要はない。

今や、社会の動きを伝える情報はたえず世界中から伝わってくる。それらをいちいち紙上の記事にまとめていると、どうしても時間がかかる。実際、速報性に優れたテレビやインターネットの方が機敏に情報を提供しているといえる。だから、私たちはテレビやインターネットの利用を通して、常に新鮮な情報に触れられる。これが社会の動きを知りたいときには大いに役立つ。

紙の新聞や雑誌などは、そのままの形でずっと保存しておける。書き換えや削除が容易な電子的な媒体よりも紙の方が正確な記録が残るから、社会の動きを知るには紙の新聞や雑誌を利用すべきだという人もいる。しかし、紙だからといっていつまでも残るという保証はない。湿気や日光などで傷んだり、破損したりして読めなくなることもある。つまり、正確な記録が残るとはいえないのだ。

(22字×32行)

作成例2

最近数週間にわたって、テレビやインターネットが食品の汚染問題を連日取り上げている。そこで私はこの問題について、図書館に行って調べてみた。すると、汚染物質を含む食品の問題は、公害問題に社会の注目が集まるにつれて、数十年前から新聞や雑誌で繰り返し指摘されてきたことがわかった。新聞では多くの紙面を割いて報道され、雑誌でもいくつも特集が組まれている。記事の大きさや配置で、問題の重要度や他の問題との関連も把握でき、単に食品だけの話ではない、大きな社会問題であることもわかった。

私たちは手軽にいろいろな情報を得ようとして、何でもテレビやインターネットで済ませてしまいがちだ。しかし社会の動きを知りたいときには、やはり紙の新聞や雑誌などを利用すべきだ。

現在は多種多様なメディアが、社会の動きに関する情報を伝えている。しかし、テレビやネット検索だけで得られた情報は断片的であり、問題どうしの関係や、他のできごとからの影響などを察知するには難がある。紙の上にレイアウトされた記事ならば、紙面構成からそれらの関係を読み取ることができる。

インターネットやSNSを利用すれば、社会の動きやそれに対する多くの人々の考えがわかる。だから、紙の新聞や雑誌などは必要ないという人もいる。しかし、そのような情報だけでは、的確に社会の状況をとらえることはできない。限られたごく少数の人々の意見が短時間のうちに拡散し、あたかも全国民の意見であるかのように伝わってしまうこともある。したがって、社会全体の動きを反映しているとはいえない。

(22字×31行)